



犬と猫の慢性腎臓病と食事管理

湘南獣医師会 塩谷 香織

犬と猫で多い病気

慢性腎臓病は犬と猫でよく見られ、心臓病や腫瘍とならび高齢動物での発生が多い病気です。以前は慢性腎不全と呼ばれていましたが、最近では慢性腎臓病と呼ばれることが多くなっています。

慢性腎臓病とは

この病気は様々な原因により腎臓が障害されることで起こります。血液検査や尿検査などにより診断され、腎障害の程度により病期分類(ステージ1~4)されて

います。ステージが進むにつれて、症状(尿量や飲水量の増加、体重減少、食欲低下)が現れ、徐々に尿毒症に関連する症状(嘔吐などの消化器症状、元気低下など)を伴うようになります。最終的には痙攣や昏睡など神経症状を起こすこともあります。

早期発見・早期治療

治療は、原因、病期、症状により異なり、予後も様々です。残念ながらこの病気は完治することはありませんが、早期に発見し治療することで

パク質、リン(P)、ナトリウム(Na)の含有量が少なく、脂肪(エネルギー)、ω3脂肪酸が強化されているフードです。動物病院での取り扱いになります。

タンパク質

食事性タンパク質の摂取量を減少させると、腎臓病の進行に関与していると考えられている

の為、犬猫の慢性腎臓病の治療としては、①慢性腎臓病の進行を抑える②尿毒症の発生を抑える③適切な栄養支持が挙げられます。食事管理はこのような目標の全てに重要な役割を果たしており、一般的に腎臓病治療食が用いられています。

P(リン)

高P血症は腎臓の炎症と石灰沈着の原因となり、さらなる腎障害を起こす恐れがあります。複数の研究から、Pを制限した腎臓病治療食は一般

般総合栄養食と比べ、犬猫の生存期間を著しく延長したことが確認されています。

気になる症状があれば、ご相談ください

慢性腎臓病は、早期診断、定期的なモニタリ

ング、ステージに応じた治療や食事管理が重要です。お家のペットに腎臓病があるのか?腎臓病治療食が必要か?気になる症状があれば、まずはお近くの動物病院にご相談ください。

(かまくら犬と猫の病院)

食事を切り替えるための工夫

- 早い時期から療法食への切り替えを:ステージが進み、尿毒症が現れる時期までとくと、食事の切り替えが困難になる
- 徐々に新しい食事に移行する:1週間以上はかける。切り替えに抵抗を示す場合は4週間程度かけてみる
- 猫の場合は平皿を使う:ヒゲが食器に当たるのを嫌がる場合がある
- 悪心があるときは無理しない
- 新鮮な食事を温度に注意して与える:ウェットフードは温めると嗜好性が高まる。ドライフードを冷蔵保存している場合は、室温に戻してから与える
- 食感やタイプの異なる食事を与える
- 好みの風味を加える

*これらの工夫をしても切り替えが上手くいかないときは、フードのブランドを変えてみるのも一つです。

「食べる食事」
食べることが
日に必要な
g分の野菜
しいときに
たしなど。

「食べる料理」
をプラスす
れた食事に
てもOK!
く、小血に
で、味を感
れます。
した大葉な
アクセント
。

直通)